



タイ現地法人の財務状況を把握したい顧客企業をサポート 会計・税務サービスの品質を向上

Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.

タイに拠点を構え、日系企業向けに会計・税務サービスを提供しているHongo Toyo Accounting Co., Ltd. (以下、Hongo Toyo Accounting)では、ビジネスエンジニアリング(B-EN-G)のクラウド型国際会計アウトソーシングサービス「GLASIAOUS」を導入。同社の顧客である日本企業の親会社は、タイ現地法人の財務状況をリアルタイムに把握できている。



辻・本郷 税理士法人
HONGO TSUJI TAX & CONSULTING

Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.

<https://www.ht-tax.or.jp/>

設立 2017年4月

事業内容 タイにおいて記帳代行、月次税務申告、月次レポート、法人税申告、決算書作成代行、社会保険・給与計算、税務調査対応などの各種サービスを提供。

辻・本郷税理士法人とToyo Business Service PCLの合併により、2017年4月に設立。タイにおいて日本基準の高いクオリティの会計・税務サービスを提供する。辻・本郷税理士法人は、アジア地域ではタイのほか、カンボジア、ミャンマーにも拠点をもち、駐在日本人が現地の日系企業に対して会計・税務サービスを提供している。

改善点 ▶ リアルタイムの財務状況の把握／事務処理のスピードアップと効率化／多言語対応によるタイ独自の勘定科目の把握

導入製品 ▶ GLASIAOUS

POINT ▶ 多言語、多通貨、複数会計基準の管理への対応はもちろん、クラウドサービスであることなどを評価して採用。日本の親会社は、タイの現地法人の財務状況をリアルタイムに把握できるサービスを実現するとともに、入力データの修正の手間を省き、事務処理のスピード化と効率化を実現している。

導入前の課題

- 会計データを出力し、メールで送信する作業に時間と工数がかかっていた
- タイでは独特の勘定科目が多く、顧客の日本本社側では理解しづらい
- タイではスタッフの離職率が高く、継続的な顧客企業へのサポートが必要



導入後の効果

- 日本の親会社がタイの現地法人の財務状況をリアルタイムに把握
- 多言語対応なので、タイで入力された内容も日本側でわかりやすく表示
- クラウドで手軽に情報把握できる利点を活かし、顧客へのサポートも容易に

日本とタイの情報共有の円滑化や 会計スタッフの働き方改革にも寄与

多言語、多通貨への対応や 複数の会計基準へ対応できる点に注目

Hongo Toyo Accountingの親会社である辻・本郷税理士法人は、グループ全体で全国58拠点、1,102名体制の専門特化型、国内有数規模の税理士法人だ。顧客数は1万社を超え、豊富な経験と実績、プロフェッショナル集団としての確固たる組織力が特長だ。

Hongo Toyo Accountingについても、タイの顧客に対して満足度の高い高水準の会計サービスを提供している。タイに進出したいと考えている日本企業に対し、記帳代行や月次税務申告、決算書作成代行などの各種会計・税務サービスを行っている。また、合併先のToyo Business Service PCLは会社設立サポートを行っており、グループでワンストップサービスを提供している。

これまで同社では、スタンドアロンの米国製会計ソフトを使っていたが、顧客企業の親会社がリアルタイムに現地法人の状況を把握できないという課題を抱えていた。

Managing Directorを務める佐藤洋史氏は、「これまでの会計ソフトでは、貸借対照表(BS)や損益計算書(PL)、総勘定元帳などをExcel形式で出力して、メールでお客様に送信する作業に時間と工数がかかっていました。クラウドの会計ソフトであれば、日本の親会社がタイの現地法人の財務状況をリアルタイムに把握できます。このような理由もあり、新たにGLASIAOUSを採用することに決めました」と語る。

佐藤氏はタイに赴任する以前は辻・本郷税理士法人本社(東京)で勤務しており、その際に、ある銀行の担当者からの紹介でGLASIAOUSのことを知ったという。「GLASIAOUSは、多言語、多通貨、複数の会計基準の管理に対応しており、海外展開を進めているお客様にとって海外子会社の管理に非常にメリットがあると感じました」と佐藤氏は当時の印象を語る。

日本からのリアルタイムの状況把握で 事務処理の高速化と効率化を実現

GLASIAOUSの導入においては、実際にユーザーとなるタイ人スタッフの習熟度をいかに向上させられるかが最大のポイントだった。GLASIAOUSには多くの機能があるので、マニュアルを読むだけでは使いこなすことは簡単ではない。

そこで佐藤氏は、「タイ人スタッフは、一般的に保守的な人が多く、あまり新しいことをやりたがりません。そこで、まずは日本語が話せるタイ人スタッフに、日本に出張してもらい、GLASIAOUSの研修を受けてもらうことで習熟度を向上させ、その後、タイに戻ってほかのスタッフにGLASIAOUSの使い方を広げてもらうことにしました」と語る。

GLASIAOUSについて、同社の会計スタッフであるBing

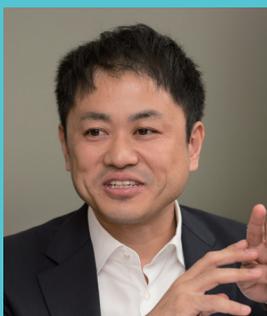
CASE STUDY

専門・技術サービス

Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.



Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.
Managing Director
佐藤 洋史 氏



Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.
General Manager
井口 将来 氏



Hongo Toyo Accounting Co., Ltd.
Junior Consultant
Satita Ratanasuwan(Bing) 氏

氏は次のように語る。「GLASIAOUSは機能が多いので、最初はとまどうこともありました。クラウドの会計ソフトを使ったのも初めてでしたが、使い慣れてくると、1度データを入力すれば、お客様もすぐに参照できますし、お客様からのデータ修正依頼にもすぐに対応できるので便利です」

例えば、ある顧客から「タイの現地法人の連結データを毎月15日までに確定してほしい」という要望があったときに、Hongo Toyo Accountingのスタッフが、GLASIAOUSを使って会計処理を行い、顧客に確認してもらい、修正があればそれを反映するという作業が可能になった。これにより、会計データの修正の手間を省き、事務処理のスピード化と効率化を実現している。

また、General Managerの井口将来氏は、「タイには、独特の勘定科目があるので、これを英語で入力しても日本側ではわからないことがありました。GLASIAOUSは、多言語対応なので、タイ人スタッフが英語で入力した独特な勘定科目を、お客様の本社がすぐに日本語で確認できることも高く評価されています」と話す。

また、場所を問わずに利用できる点もメリットとなっている。「スタンドアロンの会計ソフトは、オフィスに来なければ作業ができませんが、クラウドであるGLASIAOUSは、自宅からでも作業ができるので、スタッフが柔軟に働けるようにもなります」と井口氏。さらに「現在ではタイ語でのサポートが開始され、タイ人スタッフが直接メールや電話でサポートしてもらえるようになったことへの期待も大きいです」と続ける。

クラウド会計ソフトが少ないタイでは GLASIAOUSの導入自体が会社の強みに

今後の取り組みについて井口氏は次のように話す。「現在、Excelで会計処理を行っているが、Invoice発行と記帳が連動したクラウド会計ソフトに移行をしたいというお客様からの依頼が数多くあります。またタイは、スタッフの離職率が高く、経理スタッフが退職したのでサポートしてほしいという依頼も多くあります。こうした要望にも、GLASIAOUSを利用されているお客様であれば、すぐにサポートを開始することができるので、今後もお客様の要望に応じていきたいと思っています」

また佐藤氏は、「タイでは、クラウドで会計サービスを提供している会計事務所はまだ少ないので、GLASIAOUSを導入したこと自体が会社の強みになっています。辻・本郷税理士法人全体としては、タイ以外でミャンマーのスタッフもGLASIAOUSの研修を受けているので、今後はミャンマーなどの拠点にもGLASIAOUSを導入していく計画です。海外子会社の会計ソフトを統一することで、顧客満足度のさらなる向上も期待できます。そのためのサポートを、B-EN-Gには期待しています」と話している。



ビジネスエンジニアリング株式会社